

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490400013		
法人名	有限会社 小春日和		
事業所名	グループホーム 小春日和		
所在地	亀山市南野町12-13		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果市町提出日	平成26年4月9日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigvosvoCd=2490400013-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 2 月 26 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、健康で安心して安全な生活・生き生きと穏やかに生活して頂ける様に従業員一同、一丸となりサポートしています。利用者の身体・精神状況をしっかりと把握して心のケアを大切にしています。利用者、職員共に元気で明るく、家庭的な雰囲気笑顔が溢れています。地域の方々にも見守られ、月1回ボランティアの方々(レク・オカリナ・絵画)の協力でお茶やお菓子を楽しみながら、楽しいひとときを過ごし、利用者も大変熱心に参加している。外部の方々との語りやゆったりとした時間の共有を大切にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

亀山市、旧東海道に近い住宅街に、社長の自宅と倉庫を改造して開設されたグループホームである。デイサービスと併設して開設されたが、現在は、1ユニット9人が暮らすホーム単独で運営されている。道路からすぐ目につくようホーム名が書かれたのぼり旗が立てられ、地域密着のホームの存在感を示す役割も果たしている。社長と介護支援専門員の両輪で介護の実践に取り組んでいる。現在は、比較的介護度が低い利用者で、元気な方が多く、昨年は、日帰りバスツアー旅行で静岡県にまで出かけたり、亀山市周辺の名所へ花見や紅葉狩りなどへ出かける等の支援がされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づき利用者の願い、思いを傾聴・受容し、尊敬の念を持って接し、利用者の自立を支援している。	理念を書いたものが職員の目につく台所に張り出され、利用者本位・利用者中心の介護を第一に、介護の実践をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の情報を発信してもらい、参加を心がけている。地域の祭りの際、当施設の駐車場が子供神輿の休憩場になり地域の一員として行事と一緒に楽しみ、ふれあい交流の場となる。	社長は、もともとこの地の方で地域との馴染みは深く、地域での文化祭が来る3月2日開催予定で、利用者の作品の展示する予定である。また、定期的にボランティアとの交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の様子等を毎月の職員会議議事録をもとに運営推進会議(自治会長・民生委員)でお知らせしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告・利用者の様子・新しい取り組み等を報告し、出席者の方々の意見を聞きながら、話し合いを行い、今後のサービス向上に活かしている。	隔月に開催がされている。ホームの現況報告をして、出席者それぞれから意見等が出されている。また、祭りや文化祭などの開催等、地域の情報を知る機会でもある。議事録は、職員会議の議事録とともに行政に提出している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の利用者入所情報を報告するとともに、事業の運営や利用者に関する相談をして協力関係を築いている。	行政へは主に電話で相談をしており、研修案内などの通知があり、適時参加をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勝手に外に出て行く等の行為をする方がいる。見守り強化、センサー等の工夫をしながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	現在、夜間になると不穏状態が続く利用者があり、不潔行為に及び、やむを得ず家族の同意のもと、抑制寝巻を着用している。その理由、経緯などは書面で記録がされている。拘束についての研修は実施されていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は利用者の様子等に細心の注意をはらい、防止に努めている。又職員も利用者に対して適切な対応をするようお互いに心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	最近対象者が入所した為、親類の方とともに学ぶ機会を持つ必要があるかもしれない。今後の課題である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族等に十分な説明を行い、十分に理解・納得してもらうことを心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置していたが、活用されていなかった。面会時に利用者の状態・状況をお知らせするとともに意見・要望等もお聴きして今後の運営に反映できるように努めている。	運営推進会議には家族と利用者が出席をして、意見表出の場になっている。月に1回、介護費用等の支払いで家族の訪問があり、様子を伝え要望や意見を聞くように心がけているが、あまり要望は出していない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員に改善提案書の提出により、意見を聞く機会を持つ。介護者意見交換ノートを書くことにより、職場での意志統一を図っている。毎月末職員会議の開催で介護現場からの意見を聞く機会を持っている。	月に1回の職員会議、休憩時間、さらに日々の介護中でも、職員からの意見は出される。社長は24時間体制で利用者の生活を見守っているので、職員からの要望の受け入れはスムーズに行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を聞く機会を持ち、身体的・精神的に無理の無い勤務で向上心を持って働けるように職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を確保し、職員一同で学ぶ機会を持ち、意見交換をしてより良いケアの実践が出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加して交流の機会を持ち、ネットワーク作り・意見交換・情報交換をしている、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人を十分に理解できるように、本人の面談を十分に本人の困りごと、不安・要望を傾聴・受容に心がけ、課題分析をしっかりとした上で本人との信頼関係が構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人を十分に理解できるように、本人、家族の面談を十分に家族等の困りごと、不安・要望を傾聴・受容に心がけ、課題分析をしっかりとした上で家族との信頼関係が構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族等がまず必要としている支援を見極め、意向を把握して、総合的援助が出来る様に対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は当施設の介護理念を守り、利用者と共に出来ることに喜びを感じながら、支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族等の面会時には、身体・精神的な日常の様子や状況説明をして、本人とのより良い時間の共有が出来る様に援助している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員は、歌を楽しむ・昔を回想する等本人との心地良い時間の共有を大切にしている。	住んでいた近所の方や友人の訪問がある。欲しい文房具を買いに出かけたついでに、寄り道をして自宅付近まで足を延ばすなどの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課により生活し、一緒に支えあい、協力しながら、暮らしを共にしていける様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当施設の利用が困難になった場合、必要に応じて情報提供・相談には対応している。信頼関係は、継続出来る様に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人と会話する機会を持ち、思いや意向を聞きながら把握していき、できるだけ利用者主体となるようにしている。	現在の利用者は会話ができるので、様子を見て声掛けしている。一人ひとりの個別対応を心がけ、職員同士チームワークを組んで、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集の上、課題分析(アセスメント)概要を作成して、共通理解の下支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	当施設の介護理念に基づき支援している。毎朝バイタルチェックして身体的・精神的な充足感が得ることが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々のケアの課題点・ケアの方法を協議の上設定、目標に向かって支援している。サービス担当者会議を開催して、新たな課題について検討している。	入居時、介護支援専門員がアセスメントをして、それを厨房に掲示し、職員に周知をする。職員から意見を聞き、介護計画書を作成している。日々、職員が個々のケア目標の記録をし、計画書の見直し時に活用している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケア目標(課題点・ケアの方法)を立てて、その視点・観点で日々の個人ケア日誌を記録していく。問題点は、ミーティング・職員会議・担当者会議で検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の希望や思いをできるだけ尊重し、外出行事・誕生会・季節行事・お楽しみ昼食を行っている。医療機関の受診支援もしている。ボランティアの方々との楽しい時間の共有もやっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	閑静な住宅地で環境も良く、天気の良い日は、散歩、戸外でレク・歌・おやつ・お茶の時間を持ち、外の空気を満喫している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診の支援をしている。受診の際にかかりつけ医に身体状況を報告している。緊急時には、かかりつけ医に連絡し、相談・指示を仰ぎ、往診支援もして貰っている。	近くの開業医が協力医療機関になって、月に1回、定期的に受診に出かけている。場合によっては、往診も可能である。受診はホームで支援しており、医師とはいつも相談ができる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェック・健康観察をしている。利用者の体調変化時には、かかりつけ医に連絡し、相談・指示の下、適切な受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、見舞いや電話で経過報告を聞き、退院に向けてのアドバイスをしてもらう等情報交換や相談をしている。ケースワーカーとの情報交換もしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関との協働の下、事業所として出来る限りの事をするという説明をして家族の理解が得ることができた折、受け入れ可能である。	本人・家族の希望があれば看取りをしていく方針であり、すでにホームでの看取りの経験もある。協力医の指示に従って、家族とも相談し対応していく。	今後、重度化・終末期に向けたホームの方針を指針として文書化し、家族とは十分な話し合いを持ち、同意を得るようお願いする。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の疾病・治療経過・薬剤等の情報については、共通理解を図っている。利用者の体調変化時にはかかりつけ医に連絡し、相談・指示の下、適切な受診をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、利用者とともに火災・防災の避難訓練を実施している。実施する際には、地域の方々にお知らせ協力してもらっている。	年に2回、火災を想定した避難訓練を実施しており、訓練前には、近所へ訓練をする旨知らせている。緊急時、電気が止まった時、2階から利用者を降ろすため、簡易タンカを購入し、その訓練もしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者を個人として尊重し、プライバシーを守り、安心と尊厳のある生活が出来る様に、言葉かけや会話にも注意をはらい、対応している。	特に羞恥心が伴うことについては、言葉遣いに配慮をしている。ソファが置かれて、そこで利用者と個別にゆっくりと話を聞く場になっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が、主体的に自己決定が出来る様、職員は和やかな雰囲気と笑顔の対応で傾聴・受容し、尊敬の念を持ってかわり、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の意向を聞いて、本人の主体性を重んじ、日々の安らぎを感じる事が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・外出時・入浴更衣時等個人の主体性を重んじ支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食・夕食の副食は老人宅配サービスを利用しています。1ヶ月に1、2回お楽しみ昼食(誕生会にも)利用者の好み等を聞き、職員が手作りで提供している。行事も利用者主体で行っている。	朝食は、社長が賄っており、昼と夕の副食は業者委託の弁当で、ご飯はホームで炊いている。テーブル拭き、配膳や下膳、皿洗いなど利用者の出番もある。月に1~2回、お楽しみ昼食会をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は、充分に取れるように配慮して、いつでも提供できるようにしている。食事形態も個々に応じて工夫している。嚥下体操は、食事前は必ずしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア・うがい等の励行をしている。義歯の方も同様にしている。夕食後は、義歯を預かり、洗浄し保管している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者個々の排泄リズム、パターンを把握した上で排泄の声かけをして、トイレに自主的に行くように誘導してトイレでの介助をしている。	自分でトイレへ行ける方もあり、誘導をしてトイレでの排泄をしている。夜間は、一人抑制寝巻なのでオムツである。便秘には特に気をつけて、心配な利用者は牛乳を飲んで予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるかぎり薬を主体としない自然排便を目指して、水分摂取量・食事・運動等への気配りをしている。利用者個々の排便チェックを徹底し、便秘薬の提供支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、週2回であるが、利用者の希望に応じる事は可能です。足腰・歩行不安定な利用者はリフト利用している。浴槽に入りゆっくり入浴を楽しんでもらっています。	今は利用はないがリフトも設備されている、大きな浴槽である。週2回、午後の時間が入浴タイムである。ゆず湯や、職員のアイディアでみかんの皮を干して湯の中に入れてホカホカ風呂を演出している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に応じて休息支援しています。昼食後は、個々に応じて休息タイム、娯楽支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬・薬剤情報は、責任者が個別管理・保管している。受診情報も個別に記載し保管している。服薬支援と症状の変化の確認・対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午前中にリハビリ体操・水分補給。午後に体操・レクリエーション・おやつ・お茶タイム・歌を歌う等支援している。ボランティアの方々と交流も支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物付き添い支援・病院受診・病院定期受診・ドライブ・外食等の外出支援しています。	近辺へ散歩に行っている。ホームの前の駐車場のスペースでお茶をしたり、歌を歌ったりして楽しんでいる。市の文化会館での催し物に出かけることもあり、昨年11月、日帰りバスツアー旅行に出かけた。亀山には史跡もあり、花見などに折々出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを預かり管理。本人の希望によりお金を所持して付き添い支援をしている。出納帳記入管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者に応じて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間の広さはやや狭いが、利用者の顔が見え、動向もわかる。利用者共同作品の作成・掲示で温かみのある空間が出来ている。	改造した建物で狭さを感じるが、その分、みんなが触れ合っている。壁に利用者の似顔絵が描かれ、利用者手作りのお雛飾り、手形が飾られている。大きな絵画も癒される。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いている空間は広くはないが、利用者同士雑談もでき、ゆっくりと過ごしてもらえるように工夫して、大いに活用されている。又面会時にお茶を飲みながら、語らいの場所としている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が居心地良く出来る様、プライバシーも重視し、本人の使い慣れたものを持ち込み、好みのものを活かし本人が心地よい居室空間となるようにしている。	居室は、1階に3室、2階は6室ある。それぞれクローゼットが設備されているので、きちんと整理されている。中には大事なものを持ってきている利用者もあり、テレビ・整理ダンスなど持ち込まれている。衣類はリストを作り、週に1回、居室の点検をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人が、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れる様に、生活に迷いや不安がないように、かつ職員の顔がいつも見えるように心がけて見守っている。時間・場所の表示等の工夫をしている。		